

保護者の皆様へ

キャリア・就職支援課より

本年度もコロナウイルス感染拡大のため、学生の皆さんは大きな不安を抱えての就職活動となりました。それでも「保育者になりたい」という目標実現のため、意欲的に就職活動に取り組んでいます。キャリア・就職支援課は教員と連携して、そういった学生の目標を実現するため、積極的な支援を行っています。

個人面談は、1年次(12月)と2年次(5月)に全学生を対象に実施します。将来の希望進路を確認し、親身になってアドバイスをしています。もちろん面談期間以外でも、就職相談全般、履歴書・作文添削、模擬面接・GD対策などいつでも対応しています。

就職ガイダンスは、7回実施します。1年次は主に就職意識を高めることを目的とします。2年次は例年7月に開催される「栃木県幼稚園教諭就職説明会」「宇都宮市私立保育園就職説明会」に向けて、更に、この時期から本格化する就職活動に直結する実践的な内容を取り上げます。

求人情報や資料も充実しています。なかでも、卒業生の「就職活動報告書」は学生に多く活用されています。相談しやすく利用しやすい雰囲気づくりを心掛けているので積極的に来室してほしいと思います。

就職ガイダンスの内容

- 1年次
・「学生生活と就職活動」
・「OG講話」
・「進路登録票・個人面談について」
- 2年次
・「就職活動の進め方」
・「履歴書・志願書の書き方」
・「マナー講座」
・「就職説明会について」

内定者報告会

2022年12月14日実施



キャリア・就職支援課 平澤 祥久

本学では、大学で学びたいという強い意志があるにもかかわらず、経済的な理由で学業継続が困難な学生をサポートするため、様々な奨学金制度を扱っています。ここに記載されていない奨学金もありますので、奨学金が必要となった場合はお気軽に学生課までお問い合わせください。

《日本学生支援機構奨学金》

①給付・授業料减免新制度

※住民税非課税世帯と
それに準ずる世帯が対象

新給付制度紹介HP 進学資金シミュレーター



②貸与奨学金制度

※無利子の第1種と有利子の第2種があり
卒業後には返還が必要

貸与奨学金紹介HP

貸与・返還シミュレーション



◇申請資格等の詳細は、QRコードのHP等
から確認してください。

◇毎年4月上旬に希望者説明会を実施予定。
日程等詳細は掲示板等で案内します。

【奨学金に関する問い合わせ先】

学生課

(電話)028-670-3641
(E-mail)gakusei@sakushin-u.ac.jp

●希望者説明会:4月10日、11日、12日の昼休みに実施予定

令和4年度学位記授与式

2023年 3月19日(日)

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
第2体育館(大学・短大合同)

午前10時~(受付午前9:00~)



【出席される方へのお願い】

- ①次の症状が一つでも出ている場合は出席しないでください。
 - ・カゼの症状や37.5度以上の発熱がある場合。
 - ・強いだるさ(倦怠感)や息苦しさ(呼吸困難)がある場合。
 - ・味覚や嗅覚に異常を感じた場合。
- ②事前に必ず検温を行い異常がないことを確認し、健康観察シートに記録をとり当日持参してください。
- ③自家用車で来校の場合、友だちとの相乗りは自粛してください。
- ④スクールバスを利用する場合には、車内での会話は控えてください。
- ⑤出席の際は必ずマスクを着用してください。
- ⑥欠席の場合は、代表電話(028)-667-7111へご連絡ください。

SAKUSHIN
Bulletin * Support Association for
Sakushin Gakuin Univ Women's Junior College



作新学院大学女子短期大学部 総務課内 後援会報事務局/栃木県宇都宮市竹下町908 TEL028-667-7111 FAX028-667-7110

SAKUSHIN

作新学院大学女子短期大学部
2023 Vol.25 後援会報



SPOTLIGHT

幼稚園・保育園実習

子どもたちの真の姿にふれ、保育者として人として成長していきます。

CONTENTS

- *後援会長・学長・科長メッセージ
- *教員紹介
- *イベント&トピックス
- *お知らせ...etc



SAKUSHIN GAKUIN
UNIVERSITY
WOMEN'S JUNIOR COLLEGE



作新学院大学女子短期大学部
後援会長 水沼 正好



作新学院大学女子短期大学部
学長 渡邊 弘



作新学院大学女子短期大学部
幼児教育科長 青木 章彦

会員の皆様には日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り、
厚く御礼申し上げます。

“コロナ禍”が始まって丸3年が経過しました。この間、会議は最小限とし、総会も書面決議としているため、皆様に直接挨拶ができていないことについてお詫び致します。また昨年に始まったロシアによるウクライナ侵攻、円安や急激な物価高騰など、暗いニュースが目立ち、学生や保護者の方々も将来に不安をお持ちのことと察します。

このような時であるからこそ、学生の皆さんのがより良い学びの場で過ごせるよう環境を整え、幼児教育に貢献できる人材の育成を教職員の方々と協力して行うことが、後援会の役割と認識しております。今後も必要な支援を行っていきたいと考えています。

最後にいつも熱心に指導して下さっている教職員の方々に感謝申し上げるとともに、会員の皆様には引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

後援会の皆様には、日頃より学生への修学支援、課外活動支援、応急特別奨学金等の物心両面にわたる温かいご支援をいただき心より感謝申し上げます。

本短大は、今年創立から56年目を迎え、さらに充実発展しています。現在、保育士の役割が喫緊の課題として重要視される中で、本短大では、これまで多くの有能な保育士を輩出しています。近年では、公立保育士の合格者も増加しています。また、コロナ禍の続く中、昨年は子育てサロンの「わいわいひろば」や公開講座をリモートで開催し、地域の皆様より好評をいただくことが出来ました。

今年度も、コロナに負けず、輝かしい伝統を受け継ぎながら、更なる発展を目指し、学生と教職員が一丸となって、次代のニーズに応えて参りたいと考えておりますので、今後とも、皆様の温かいご支援とご指導を宜しくお願ひいたします。

後援会の皆さまには、日ごろより本学および短大生の学生生活のご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

春は旅立ちの季節です。卒業生は社会に、在学生は飛躍の年に、新入生は新たなキャンパスライフに。全ての作短生に心からのエールを送ります。

本学のカリキュラムは、両免取得を目指すように意図されており、毎年、卒業生の殆どが両免取得を達成し、殆どの卒業生が専門就職を果たしています。特に、令和4年度は、2名が公務員試験を突破してこの4月から公立保育士になります。また、令和元年度から公務員講座が始まりました。これまで以上に、保育者の育成に力を入れてまいります。

令和4年度は、コロナ禍で、前期・後期を通して、対面を基本しながら、オンラインをミックスしたハイブリッド授業となりました。その中でも、作短生は勉学に熱心に取り組みました。令和5年度は、コロナ禍とアフターコロナを見通して、基本的には、ハイブリッドで計画していますが、令和4年度の成果を踏まえて、よりよい授業となるように努めてまいります。また、令和5年度の新入生から、新カリキュラムになりますので、本学にとって飛躍の年になります。

私たち教職員一同は、一丸となって作短生のキャンパスライフを、全面的にサポートしています。

後援会の皆さまには、今後とも本学への変わらぬご支援をお願い申し上げます。

幼児教育科 担当教員



准教授
設楽 紗英子



*撮影のため、マスクを外しています。

| | | | | | | | | |
|----|-----------|-----------|--------------|---------------|----------|--------------|-----------------|---------|
| 後列 | 准教授 藤村 透子 | 准教授 矢野 善教 | 准教授 長澤 順 | 准教授 山本 詩織 | 講師 横井 夏子 | 准教授 宮戸 良子 | 教授 花田 千絵 | 教授 井上 修 |
| 前列 | 教授 久野 高志 | 教授 西田 直樹 | 学長 / 教授 渡邊 弘 | 科長 / 教授 青木 章彦 | 教授 坪井 真 | 法人事務局長 渡瀬 政道 | 大学・短大事務局長 山田 卓徳 | |

Pickup 教員紹介



作新学院大学女子短期大学部
准教授 山本 詩織



【経歴】新潟大学大学院現代社会文化研究科修了。博士(教育学)。2014年より新潟県長岡市の長岡こども・医療・介護専門学校にて常勤講師、近大豊岡短期大学通信教育部こども学科の非常勤講師を経て、2018年より作新学院大学女子短期大学部幼児教育科専任講師として勤務。2022年より同大学にて准教授として勤務。主な著書に『保育の原理と方法』、『保育内容の理論と実践—保育内容を支える理論と指導法』(保育出版会、2018)等がある。



教員研究紹介

造形の楽しさ



2022年に制作した作品



六甲ミーツ・アート芸術散歩2018
出展作品(兵庫県、神戸市)



栃木県立美術館 造形ワークショップ
「トレイルペーパーで紙漉き体験」の様子

幼児教育科 教授 花田 千絵

私は、学生時代から主に木を材料とした彫刻:木彫(もくちょう)の制作を続けています。近年は、猫をモチーフにして、多様なポーズからその構成の面白さ、命の力強さなどを表現のテーマとしています。木彫は基本的に、木を切り、削ることで形成していくますが、私はとくに木を貼り合わせることでできる造形の楽しさや美しさを探求しています。木の端材の中から、求めている形や大きさ、または隙間にぴったりはまる端材を見つけたときはとてもわくわくします。また、既にある形、木の色などが教えてくれることも多いです。

作新学院大学女子短期大学部では、「図画工作I・II・III・IV」などの科目を担当しています。学生の皆さんには、まずは授業をおして造形することの楽しさを感じてもらえるように試行錯誤しています。そして、子どもたちが楽しく造形することを支援できる保育者になってほしいと考えています。

一般的に、造形表現は、幼児期には活発ですが、成長し大人になるにつれ苦手意識を持ち、敷居が高いと感じてしまう傾向がみられます。少しづつ、身の回りの美しいものに触れ、各自の美的基準を形成していって欲しいと願います。

音に触れる



2020年2月、文化的催しが次々と中止・延期となりました。3月7日にリサイタルを予定していた私も例外ではなく、公演の10日前に無期延期が決定しました。新しい演奏の可能性を探る長い日々が続きましたが、少しづつホールでの演奏も再開されはじめました。

私も恩師の演奏会に足を運びました。賛否両論ある中、感染症対策を徹底し工夫を凝らしながら開催されただけでも感慨深いものがありましたが、ホールに響き渡るピアノとバイオリン、チェロが織りなす音色に包まれた空間は幸福感に満ち溢れておりました。以前当たり前のように接していた芸術の尊さを再認識できたことは、自分の演奏研究に対する姿勢を見つめ直す良い刺激になったと思っております。

そして3月5日、気持ちを新たに演奏と向き合ってきた成果を聴いていただく機会を得ることができました。私がこれまで最も大切にしてきた作曲家、ショパンの晩年の作品たちを取り上げます。19世紀前半、戻ることできなかった祖国への郷愁の念を抱き「ピアノの詩人」ショパンがピアノで語りたかったことに想いを巡らせながら、この時代にあえてリアルな空間で直に音に触れる意味について改めて考えるきっかけになれば幸いです。

EVENT 2022

入学式 4/5(火)



4月5日(火)、作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部の入学式を行ない、461名(大学 320名、短期大学部 122名、大学院 19名)の新入生が入学しました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため式典の出席者を新入生のみに限定し、式典の様子は保護者の皆さんにもご覧いただけるようライブ配信を行いました。入学式の挙行に際しまして、関係の皆様のご理解とご協力をいただきましたこと、また、たくさんの祝詞・祝電を賜りましたことを重ねて御礼申し上げます。

学外オリエンテーション 4/22(金)



4月22日(金)短大幼児教育科の「学外オリエンテーション」が、栃木県内にある那須どうぶつ王国にて日帰りで行われました。コロナ感染防止策をとりながらの実施となったため、色々と制限がある中での実施となりましたが、移動のバスの中では2年生が1年生に手遊びを指導する等の交流があり、保育者をめざす仲間同士の絆が深まるイベントとなりました。

1年生歓迎会 4/28(木)



4月28日(木)、新型コロナウィルス感染対策をとりながら短大1年生の歓迎会が本学第2体育館アリーナで行われました。2年生が幼児教育科伝統の手遊びを取り入れたスタンツ(寸舞)を企画・実施し、1年生の入学を歓迎しました。2年生の演技に緊張気味だった1年生にもたくさんの笑顔があふれました。幼児教育科では多くの行事を通して実践力を培いながら、友人や先輩、先生方と関わり、絆を深めてゆきます。

幼児体育指導者検定 6/19(日)・26(日)



6月19日(日)、26日(日)に、幼児体育指導者検定が本学を会場に行われました。幼児教育科の2年生44名が受験し、全員が2級に合格しました。幼児体育指導者は、子どもに対して、体育や運動などをして「たのしく」「わかりやすく」「安全に」指導できる「幼児体育指導者」のスキルを身につけることができる検定です。本学は、公益財団法人「日本幼少年体育協会」による幼児体育指導者検定の認定校として、講習試験を実施しています。

七夕祭り 7/7(木)



7月7日(木)、保育者をめざす幼児教育科の学生による「七夕祭り」が開催されました。キャンパス内には学生がクラス毎に制作した「壁面飾り」が展示され、イベント当日は約240名の学生が色とりどりの華やかな浴衣を着て登校し、日本らしい季節感や文化を学びました。七夕祭りの行事を学ぶことは、将来の保育者として、子どもたちに日本の伝統文化を伝えるための貴重な経験となりました。

赤十字幼児安全法支援員養成講習会 8/25(木)・26(金)



8月25日～26日の2日間、日本赤十字社主催の「赤十字幼児安全法支援員養成講習会」を実施し、本学幼児教育科の学生46名が受講しました。講習会では「子どもの成長発達と事故予防」「子どもの応急手当と乳幼児の一次救命措置(心肺蘇生法とAEDの使用方法等)」「子どもの病気と看病の仕方」「地域の子育て支援」等を学びました。最終日には検定試験があり、合格者には「赤十字幼児安全法支援員認定証」が交付されます。

わいわいひろば 11/4(金)・10(木)



11月4日(金)、11月10日(木)子育て支援「わいわいひろば」において、オンライン企画「学生と遊ぼう＆おしゃべり会」を開催しました。幼児教育科准教授 宮戸良子先生の授業「乳児保育」の活動の一環として行われ、参加者の皆様はオンラインで参加しました。講座では保健師の阿部範子先生をお招きし、ベビーマッサージの実践や子育て相談を行いました。参加者の皆様は同じ子育てママの交流の場となり、学生にとって保護者の声を聞くことができ実践的な学びとなりました。

作新祭 11/12(土)



作新祭当日は、異年齢の子どもたちと共に楽しむ姿と笑顔で溢れていきました。準備から当までの学生は責任感を持ち協力して取り組むことで自信へと繋がる大きな経験になり、そして新たな作新祭の形を提供できたと感じます。今後とも作新祭への温かいご声援宜しくお願いいたします。 幼児教育科 坂本 藍

宇都宮マラソン大会 11/20(日)



11月20日(日)、3年ぶりに「第36回宇都宮マラソン大会」が清原中央公園の周辺コースで開催されました。作大生と作短生が学生ボランティアとして参加し、誘導などの運営サポートを行いました。心配されていた天気も大きく崩れることなく、本学の教職員と学生を含む約2,600名のランナーが参加しました。

学内クリーン活動 11/22(火)～30(水)



11月22日(火)～30日(水)の6日間、幼児教育科の学生による「学内クリーン活動」が行われました。この活動は、学内環境の改善を目的として、学生自治組織「短大学友会」が企画・運営する行事です。今年度は、バレーボール、ドッジボール、バドミントンの球技種目と、全員参加の応援綱引き、クラス対抗リレーを実施しました。どの種目も熱戦が繰り広げられ、クラス一丸となって活気に満ちた大会となりました。

スポーツ大会 11/26(土)



11月26日(土)、幼児教育科において「スポーツ大会」が開催されました。スポーツ大会は、短大生同士の交流を深め、団結力を高めることを目的として、学生組織である「短大学友会」が企画・運営する行事です。今年度は、バレーボール、ドッジボール、バドミントンの球技種目と、全員参加の応援綱引き、クラス対抗リレーを実施しました。どの種目も熱戦が繰り広げられ、クラス一丸となって活気に満ちた大会となりました。

クリスマス会 12/23(木)



12月23日(木)短大学友会主催のクリスマス会が開催されました。クリスマス会では恒例の壁面飾りコンテスト、クラスごとの合奏、ビニャータ、プレゼント交換が行われました。今年は第2体育館の階段がイルミネーションで装飾され、とても幻想的なイルミネーションスポットになっていました。新型コロナウィルス感染症拡大防止に配慮しながらの開催となりましたが、笑顔の溢れる、楽しい会になりました。

公立保育士合格者



幼児教育科 2年
廣田 実央子さん



幼児教育科 2年
佐藤 百果さん

子どもたちの真の姿にふれ、保育者として人として成長していきます。



子どもも保護者も職員も
出会いがある 笑顔がある
みんなが輝くステージがある
いつも未来を…

お友達と一緒に遊ぶから楽しい、
みんなとやるから面白い!
ワクワク・ドキドキ・ふしぎ発見の
場になるように!

保育園で過ごす中で、
大切な「人の育ち」「未来への夢」の
基礎作りをしていきます。

社会福祉法人 幸倫会 陽西保育園
所在地:〒320-0063
栃木県宇都宮市陽西町1-76

ホームページURL
<https://www.yousai-hoikuen.com>

実習施設 陽西保育園



保育園実習を実施しました

幼稚教育科 2年

石堂 さくらさん

*撮影のため、マスクを外しています。

作短卒業 園長への インタビュー



社会福祉幸倫会 陽西保育園 園長 福田 清美



経済学者ジェームズ・J・ヘックマンの「幼児の教育学」という著書があります。その中で、「子どもが成人後に成功するかどうかは幼児期の介入の質に大きく影響される。」「子育ての質や幼少期の環境を高めることによって成果が導かれる。」「誕生から五歳までの時期に効果が著しい」と記されています。乳幼児期の子どもの育ち・環境の大切さがいかに成長した後に影響を及ぼすかを脳科学に基づいて検証した結果が示されています。

そんな人生の大切な乳幼児期に携われる保育という仕事は、誇りとやりがいが持てる素晴らしい職業です。仕事をする中で心に留めておいて頂きたいことがあります。当園でのメッセージですが、「Every Time Smile & Good」～いつも元気にこやかに!そして、気持ちに沿って認めながら!～ これは、お子さんに対してだけでなく、保護者の方々にもまわりの職員の方々にもそうあってほしいと思っています。保育園は保育のみでなく、子育て支援も担う場、それを成し遂げるチームワークの職場もあります。笑顔は安心を呼び楽しい場づくりの大切なツールです。素敵な笑顔を持った保育士さんに出会うことを楽しみにしています。

実習施設 岡本幼稚園



キラリと光る個性
心ときめく
“遊”ランド

子どもたちの笑顔のために
子どもたちの幸せのために
という思いのもと、
豊かな体験と「生きる力」を育むことを
大切にしています。
園での教育と家庭や地域の教育の
連携を図る環境で园たいと
考えています。

学校法人岡本学園 岡本幼稚園
所在地:〒329-1105
栃木県宇都宮市中岡本町3012-2

ホームページURL
<https://www.okamotoyouchien.jp>



幼稚園実習を実施しました

幼稚教育科 1年

多田出 実玖 さん

*撮影のため、マスクを外しています。

私は、母園である「陽西保育園」で11日間、保育実習Ⅱを実施させていただきました。最後の保育施設での実習ということもあり、前回の実習で学んだことや絵本を読む時に抑揚をつけること等を活かせるように意識して園の先生方子どもたちと関わりました。実習が始まり、最初の頃はとても緊張していましたが、園の先生方が暖かく迎えて下さり、優しく指導してくださったため、沢山のことを経験し学ぶことができました。この実習では5歳児クラスで、一日の保育を任せさせていただく責任実習を行いました。子どもたちとの関わりや、担任の先生とのお話を通し、子どもの実際の姿や発達・成長・興味に理解を深め、指導計画を作成し、責任実習当日には、曲がりなりにも何とか担任としての役割を果たすことができました。実習を通して、保育の楽しさや難しさを感じるとともに、保育者間の連携、保護者との信頼関係を築くことの大切さを学ぶことができました。実習を通して、自分の課題を見つけることができたので、短大での残りの授業でもたくさんの知識や技術を身に付けていきたいです。そして、子どもや保護者に寄り添い、質の高い保育ができる保育者を目指したいと思います。

今回の実習では、同じ5歳児クラスに13日間入らせていただきました。子どもたちは好奇心旺盛で、何事にも積極的な子どもが多く、朝は遠くにいる私を見かけて元気に挨拶をしてくれ、戸外遊びをしている時も遊びに誘ってくれました。5歳児の一日はやることが多く忙しく過ごしていましたが、その中でもきちんとやるべきことをやっている姿に驚き、感動しました。

そうした中で、保育者が、子ども一人ひとりをしっかり見てその子どもに適した言葉掛けや対応をすることにより信頼関係が築け、一人ひとりの良いところが見えてくることを学びました。

また、この実習で自分自身の課題に沢山気付くことができました。今回学んだことや感じたことをこれからの実習に活かしていきたいと思います。

学校法人江東学園 陽南わかば保育園 園長 高木 明美



保育の仕事に就き三十余年、今まで夢中で走り続けてきましたが、いつも感じることは、子ども達からもうたくさんのエネルギーが自分を支え、高めてくれているということです。それが昔も今も変わらないのは、子ども達の湧き出する力は不動だという事実がそこにあるからだと思っています。

さて、私の学生生活は、学友との関わりはもちろん、机上での講義も色濃く、忘れ難い日々でした。ピアノの試験ともなれば、異常なまでの冷や汗と手の震えを抑え、鍵盤を必死で追い…、1冊の楽譜を渡されれば、演出、舞台設定等すべてを構成し、オペレッタを完成させたその喜びに仲間と涙したり…。今ではそれが大きな武器になっていると同時に、保育者であり続けるための強い信念と使命感も母校の学びで培ったものであると確信しています。

近年、子育て環境は多様化し、保育施設に求められることが多岐に渡っています。保育現場では、今まさに学生の皆さんのが学ばれている「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け尽力しているところです。しかしながら、歴史とも言える日本教育を変えるまでには多大なエネルギーと時間を要し、まだまだ途上、険しい道のりです。保育者を目指す学生の皆さんにはぜひ、そのエネルギーと若い力を保育現場に投資して頂きたいと切に願っています。立派な保育者として社会に雄飛される日を心待ちにしています。